

## 8 「理療教育学習・評価支援システム」の導入、活用とその評価

更生訓練所 理療教育部 太田浩之

はじめに

CAI (Computer Assisted Instruction) や CMI (Computer Managed Instruction) と呼ばれるコンピュータによる効果的な教育支援形態の理療教育課程への導入の方途を心の中で永らくあためてきた。この数年間の急激な技術革新と本格的普及、事務部門の理解と協力により、その一つのシステムを平成 15 年度末に構築することができた。同システムの概要とその利活用に関する若干の検討結果とともに報告する。

### システムの概要

登録されるあはき師国家試験問題のデータのメンテナンス機能に加えて、主に次の二つの機能がある。なお、画面デザインはスクリーンリーダによる Web ブラウジングを考慮して設計した。

- ① 個別学習支援機能：各入所者が過去の国家試験問題を科目又はその單元ごとに選択して、各自のペースによる個別的、反復的な学習活動の環境を提供する。
- ② 教育評価支援機能：教官が科目又はその單元ごとに選択した試験問題、若しくは独自に作成した国家試験同等・同形式の問題をこのシステムを介して入所者に受験させ、その結果(解答)を CSV ファイルにより自動回収、簡単な集計を行う。

### システム活用の効果等

ICT (Information and Communication Technology) 利活用による授業法の変革、学力向上への期待可能性を念頭においてきた。教育工学上の知見もまじえ、このシステムの利活用の意義、期待される効果について以下のように考察する。

- ・ 16 年度専門 1 年生 (27 名) を対象とした簡単な授業アンケートにおいて、このシステム利用に対する希望が多数を占めた。特に、IT スキルの低い層からの意欲的な利用希望は意義深い。
- ・ システムの平易な操作法が利用者への自己効力感や自己学習力を獲得、又は再認識させ、生活意欲の改善、学習意欲の喚起、助長に影響すると考えられる。
- ・ 既出国家試験問題に触れることは、自らの学習活動を振り返り、学習方策の修正や再検討を促す。こうした思考によって授業から得られる情報(学習内容)が国家試験問題とリンクされ、情報はさらに活性化される。この両者の相互の関連付けにより、情報や知識の構造化が容易になる。
- ・ 教育評価支援機能により試験実施のための教官の事務量は大幅に軽減され、小テストの繰り返しによる形成的評価を促す。また、ICT を活用した授業法考察のための幾つかの示唆が得られる。

### システムへの要望

利用した入所者への面接調査から主に以下 3 点の要望を得たが、今後の情報技術の進展を待つべき要素も含まれる。①スクリーンリーダの読み上げ精度の向上、②ドリル型システムからチュートリアル型システムへの発展、③自宅等、センター外からシステムへのアクセスの実現。

### ICT 利活用と学力の向上、障害者の自立支援効果との関連性

今回の検討結果は、ICT 利活用への入所者の意欲・関心の高さを示すものの、ICT 利活用と学力、能力の向上との関連性、障害者の自立支援に寄与する何らかの効果の存在まで言及するには足りない。

一般にこの因果関係、関連性を客観化、定量化して論ずるには困難が多い。しかし、筆者はこのテーマに肯定的感触と何より夢を抱いている。さらに検討を積み上げていきたい。